

◀イメージキャラクターの「おはこちゃん」



にぎわう「おはこ市」

「おはこ市」を10月からスタートさせました。これは、石橋商店街の店主の皆さんたちで作る石橋商業活性化協議会（明里洋助会長）が、現在

各店自慢の

「おはこ市」で活気を

毎月18日 石橋商店街で「おはこ市」



の非常に厳しい各店舗の状況を打開し、商店街に活気を取り戻すとともに、商業を通じて地域に貢献しよう」と企画されたもので、毎月18日に行われることになっています。

おはこ市に参加するのは約90店舗。商店街にはテーマソングが流れ、おそろいのほっぴやエプロンでイベントを楽しんでいます。10月のおはこ市の目玉キャンペーンセールであった「ほんまかいな18円」の企画は好評でした。これからも、毎回新しい企画で楽しませてもらえそうです。また、アンケート参加の方に抽選で現金や粗品が当たる「おはこ市」コンクールも実施しています。

チャリティーで地域に貢献
「市民安全基金」に寄付

同協議会では「おはこ市」開催に当たって、単に売る買うの関係だけではなく「商業を通じて地域にどれだけ貢献できるか」を検討。その結果、安全なまちづくりの一役買おうと、売り上げ金の一部を「池田市市民安全基金」へ寄付することを目的に「おはこちゃん基金」を設立。全店の参加を前提に、毎回8店を「おはこ市特選店」に選び、チャリティーセールを実施したその店の売り上げの一部が、寄付金に充てられます。「商店街が地域の一員として、こ

れまで以上に地域にかかわり、地域と共生していこうと考え、検討を重ねました。その結果、地域の安全、特に子どもたちの安全に少しでも力になりたい、という思いから安全基金へ寄付することになりました」と企画意図を説明する明里会長。景気回復はまだまだ遠いようですが、商店街と市全体の活性化、商店街と地域の新たなコミュニケーションの形成を目指して始まった「おはこ市」。皆さんも18日には石橋へ足を向けられてはいかがですか。

問い合わせは地域活性化課（☎754・6241）

金属工芸アーティスト



池田市美術協会会員。12月11日～16日、中央公民館の美術協会会員展に出品。来年1月29日～2月3日にはギャラリーVEGAで個展を開催する。

ふるかわ はるよ
古川治代さん

（井口章一丁目）

ひと



地域で活躍されている方を紹介します

「美術協会会員で金工の女性は私だけ。男性ではご高名な片岡宏幹先生がいらっしゃいますよ」。案内された工房は、震災で半壊したのを改築した4畳半ほどの広さ。ガスパーナーや叩き台、工具類、デザインを施した製作中の金属片、量大ほどの金属板などが目につきます。

「お見えになった記念にリングを作りましょう。楽しいですよ。純銀の細い棒を指のサイズに手早く切って「はい、あとはご自分でどうぞ」。パーナーで軟かくし、自分のイニシャルを刻印し、リングの外側を叩いて輝きに変化をつける。要所を古川さんが手を入れて約1時間で完成。「そう、その調子で」と、教えるのもお上手な古川さんです。

ご主人の北海道転勤のとき彫金の面白さを知り、これからというときに転勤に。それから10年京都の金属工芸の先生に通い修行をされました。

40歳を過ぎて、美術系大学の学長を訪れ、試験に合格して本格的に金属工芸の道へ。在学中は数々の作品で受賞され、卒業生を代表して答辞を読まれたということです。「ここまでやってこられたのは、いい先生方に恵まれ、周囲の皆さんの応援が得られたから…。この気持ちを大切に地域の皆様のお役に立ちたいと考えています」とのこと。古川さんの今後に期待したいものです。

取材 市民レポーター・上浪多恵子さん